

# 6.1.1.42624

リリースノート

## 破壊的変更

- 以下の OS へのサポートが終了しました。
  - Ubuntu 18.04
  - MacOS 11
  - Raspberry Pi OS 10 (buster)
- 次のメジャーリリース (6.2) で、MacOS 12 へのサポートが終了します。

## 用語の変更

- 「システム」という用語に代わり、「サイト」と呼称するようになりました。この変更は、すべての製品 (VMS、クラウド、モバイル) に適用されます。

## 新 OS/デバイス対応

- Raspberry Pi 5 + Raspberry Pi OS 12 (64-bit)
  - Raspberry Pi カメラモジュールは、完全にはサポートされていません。
- Raspberry Pi OS 13
- Windows Server 2025
- Mac OS Tahoe

## 脆弱性の修正

- 脆弱性 (CVE-2024-7264) があつたリンクライブラリ (libcurl) が、修正済みの新しいバージョンに更新されました。
- 脆弱性を修正するため、以下の依存パッケージが更新されました: ffmpeg, libtiff, pcrew, gsoap, sqlite3

## 新機能

- イベントルールエンジンが改修され、UI が新しくなりました。
  - イベントが発生した際、アクションに対してイベントパラメーター（分析オブジェクトのパラメーター、イベント発生日時、トリガーとなったデバイスに関する情報 等）を渡すことができます。これらのパラメーターは動的に変化します。  
これにより、通知や HTTP リクエストなどのアクションをトリガーする際に、追加情報を表示できるようになります。
  - トリガー条件として、リストが導入されました。特定のパラメーター値がリストに含まれている場合、あるいはリスト内のいずれにも該当しない場合に、アクションをトリガーできます。
  - 「イベントルール」ダイアログで、トリガー名での検索が可能になりました。
  - ルールエンジンの「HTTP(S) リクエスト」アクションに、Bearer 認証と Digest 認証が追加されました。
  - 「HTTP(S) リクエスト」で、カスタムヘッダーを設定できるようになりました。
  - 汎用の「HTTP(S) リクエスト」に加えて、サイト内のサーバーへリクエストを転送する「内部 HTTPS リクエスト」アクションが追加されました。
- リモートアクセス機能が実装されました。これにより、追加のポート転送を行うことなく、サポートエンジニアがサイトサーバーにリモートアクセス（SSH、RDP 等）できるようになります。
- 「音声の再生」権限が独立し、個別設定できるようになりました。
- デスクトップクライアントで、Web ページを独立したウィジェットで開くことができるようになりました。ウィジェットからデスクトップクライアントの他の UI 部分と連携（映像の再生、分析データの取得 等）でき、特にマップ利用時のユーザー体験が向上します。
- WebRTC 映像（Android 搭載カメラで主に使用される）をサーバーに追加できるようになりました。
- サーバー側でモーション検知等を行う際に、Intel または NVIDIA の GPU を使用して、ハードウェアデコードを実行できるようになりました。  
この設定は、「サーバー設定」ダイアログでサーバーごとに個別に管理できます。
- 録画ライセンスが適用されていないカメラのライブ映像が、10 分ごとに 30 秒間中断されるようになりました。

## 改善点

- エクロスサイトレイアウト機能の改善
  - クロスサイトレイアウトの右パネルで、オブジェクト検索を実行できます（「単一デバイス」モードのみ）。
  - クロスサイトレイアウトの紹介ウィンドウが削除されました。
  - クロスサイトレイアウトの右パネルのオブジェクトを、選択したデバイスでフィルタリングできるようになりました。
  - クロスサイトレイアウトで、Web ページとローカルファイルがサポートされました。
  - クロスサイトレイアウトで、双方向音声機能がサポートされました。
- レイアウト機能の改善
  - 音声のみを再生するレイアウトアイテム（スピーカー等）に、再生された音を示すヒストグラムが表示されるようになりました。
  - タイムライン上のグローバルなミュートボタンに加え、レイアウトアイテムにも個別のミュートボタンが追加されました。ローカル設定の「レイアウト上のすべてのカメラから音声を再生する」が有効になっている場合に表示されます。
  - カメラのホットスポットのターゲットとして、共有レイアウトを使用できるようになりました。
  - SVG 画像をレイアウトの背景として設定できるようになりました。
  - デバイスと同様に、レイアウトもリソースツリー上でグループ化できるようになりました。
- 以下のカメラにおいて、ONVIF Profile G が導入されました。
  - Vivotek FD/IB9391-EHTV-v2、FD/IB9365-EHTV-v2 シリーズ
  - Hanwha XND-C9083RV
  - Uniview IPC2325SB-DZK-I0
  - Hikvision および Axis デバイスには非対応です。
- サーバーの録画モード（ストレージの扱い方）が導入されました。これにより、複数のサーバーで同じ NAS を使用できるようになり、ハードドライブを交換するだけでアーカイブを移動させることもできます。
  - 排他 - サーバーは、データの読み取りと古いデータの削除をすべてのフォルダーに対して行います（ローカルストレージのデフォルト設定）。
  - 共有 - サーバーはすべてのフォルダーからデータを読み取りますが、書き込みと削除は自身用のフォルダーにのみ行います。
  - 独立 - サーバーは自身用のフォルダーに対してのみ、読み書き削除を行います（非ローカルストレージのデフォルト設定）。

- クラウドユーザーのセッション期間を制限できるようになりました。
- ビデオウォールのデスクトップ配信機能が、初回利用時にのみ初期化されるようになりました。これにより、クライアントとサーバー間の通信が最適化されます。
- 操作履歴において、ルール作成者が HTTP アクションのリクエスト元として表示されるようになりました。
- ブックマークのツールチップが再設計され、タグと説明が表示されるようになりました。
- 「クラウドから切断」ダイアログにおいて、より詳細な情報を表示できるようになりました。
- マルチサーバー環境において、サーバーがクライアント接続のゲートウェイとして機能する場合、ライブ映像データがキャッシュされるようになりました。
- 「モバイル通知送信」アクションで、プッシュ通知に表示される情報が増えました。
- ログ設定ダイアログが改善されました。
- リソースツリーとカメラアイテムに表示されるアイコンについて、意味が混在していたのを現在の録画ステータスのみに統一しました。
- 操作履歴にサーバー名や IP アドレスが表示されるようになり、イベントが発生したサーバーを特定できるようになりました。
- ライブ映像に現在時刻を表示する設定が、ローカル設定（表示）に追加されました。
- ソフトトリガーを起動したユーザーの情報が、イベントログに保存されるようになりました。
- ヘルスモニタリングのデバイス情報に、MAC アドレスとサーバー用識別 ID が追加されました。
- 再生・一時停止ボタンをクリックした際に、再生速度が保存されるようになりました。
- デスクトップクライアントで開いた Web ページの自動リロードを行う設定を追加しました。
- ブックマーク検索で、スペースを含むブックマークも正しく処理されるようになりました。
- リソースツリー内のグループに対して、階層のツールチップが実装されました。
- Linux 版でも、タイムラインツールチップでライブプレビューが利用可能になりました。
- レイアウト上で複数のライブ映像を表示する際の、映像間の時刻同期が改善されました。
- システムディスクの空き容量が一定量（デフォルト 1GB）を下回ると、ログローテーションが自動的に開始されるようになりました。
- 認証パフォーマンスの向上と、クラウド接続サイトからの意図しないログアウトの防止のため、JWT トークンが完全にサポートされるようになりました。
- Windows 11 におけるデスクトップクライアントの安定性を向上させました。
- CLI パラメーター `--window-geometry` を使用してデスクトップクライアントを実行すると、ウィンドウサイズの制限が解除できるようになりました。
- CLI パラメーター `--hide-panels` を使用してデスクトップクライアントを実行すると、すべてのサイドパネルを非表示にした状態で起動できるようになりました。

- Web Admin の「デフォルトにリセット」ダイアログが改善され、リセット後も有効化済みのライセンスはサーバー上に残るといった情報が追加されました。
- デバイスの I/O ポートの状態を監視するようになりました。
- サーバーが、クラウド接続状態を監視するようになりました。また、新しく「クラウド接続障害」イベントが導入されました。
- 分析イベント「Shock Alarm」の種別が、継続的イベントから瞬間的イベントに変更されました。
- 通知フィルターは、デスクトップクライアントのローカル設定から、右側パネルの通知タブに移動されました。
- Windows OS では、Direct3D を使用してデスクトップクライアントをレンダリングするようになりました。これにより、OpenGL レンダリングに由来するさまざまな問題（OpenGL ドライバーの欠落・旧式化・不具合、GPU 切替 等）が解決されます。
- 「サーバーに接続」ダイアログから画像を削除しました。

## 分析機能の改善/修正

- Onvif Profile M が導入されました。以下のデバイスでテスト済みです。
  - Axis P1375-E, Axis Q1615 Mk III (FW 10.8.1)
  - Bosch FLEXIDOME IP Starlight 8000i (FW 7.82.0025 (25500782))
  - DWC-XPZA03Mi/A08Mi
  - Hanwha カメラ (FW 2.11.07)
- Axis の分析機能が改善・修正されました。
  - Axis カメラの分析オブジェクトのタイムスタンプの精度が向上しました。
  - CAMMRA AI. の LPR が利用できるようになりました。
  - 車両の進行方向データが Axis LPR に追加されるようになりました。
  - Axis LPR の通知に認識結果が含まれていない問題を修正しました。
  - Axis マルチセンサーカメラで、最初のセンサーにしかオーバーレイが適用されない問題を修正しました。
- Vivotek の分析機能と ROI が改善されました。
  - 干渉検知、音声&衝撃検知、PIR アラーム
  - 分析領域をカメラに適用した後、領域が変形していた問題を修正しました。
- Uniview ROI が導入されました。
- Milesight ROI が導入されました。
- Uniview IPC2328SB-DZK-I0 および IPC3238SB-ADZK-I0 で分析機能を利用できるようになりました。
- 詳細オブジェクト検索機能が改善され、追加の属性やテーブルを表示できるようになりました。
- レイアウトアイテム上の関心領域を、デフォルトで無効にできるようになりました。
- 分析エンジンが改良され、ラベル、数値スピンボックス、ポリゴン図、ボックス図、線図など、多くの新しいコンポーネントがサポートされるようになりました。「映像に表示」チェックボックスを非表示にするプロパティも追加されました。
- 分析設定において、「パスワードを表示」ボタンの表示/非表示を選択できるようになりました。
- 分析オブジェクトの検索設定が、ユーザーごとにサーバーに保存されるようになりました。
- 分析設定の BoxFigure で useLabelField がサポートされました。
- イベントフィールドのプレースホルダーが、(分析イベント・汎用イベントに加えて) 分析オブジェクトでもサポートされるようになりました。
- 分析属性値ごとに色を付けることができるようになりました。色はオブジェクト検索ダイアログで割り当てることができます。

- インタラクティブなプラグインの設定で、ユーザーのブラウザで開く Web リンクをバナーに追加できるようになりました。
- 分析設定の「アクティブ設定」パラメーターダイアログをカスタマイズできるようになりました。
- 分析オブジェクトのプレビュー再生時間は今まで 8 秒に制限されていましたが、オブジェクトの存在期間全体が表示されるようになりました。
- 分析オブジェクトのプレビューにおいて、属性が多数存在する場合、スクロールバーが表示されない問題を修正しました。
- 正常に動作しているストレージに対して、「分析ストレージがオフラインです」というイベントが報告される問題を修正しました。
- イベントログの説明に、分析イベントの属性情報が欠落していた問題を修正しました。
- 分析イベントのルールがグループレベルで設定されている場合、分析イベントがトリガーされない問題を修正しました。
- Bosch カメラで分析イベント (IVA) が機能しない問題を修正しました。
- Dahua ITC413-PW4D-IZ1 で、最初のオブジェクトしか検出されない問題を修正しました。
- Hikvision iDS-2CD7146G0-IZS で検出されたオブジェクトがアクションをトリガーしない問題を修正しました。

## 新規デバイス対応/修正

- デバイス個別修正
  - AXIS F9114 からのライブ映像が読み込めない問題を修正しました。
  - Arecont Vision AV02CLB-100 および AV05CLD-100 の通信を TFTP から RTSP に切り替えました。
  - Axis I/O モジュールの RTSP (「メディアストリーミング」) ポートを設定する機能を追加しました。
  - Axis Zipstream の設定を、詳細設定ダイアログから行えるようになりました。
  - Axis マルチセンサーカメラにおいて、詳細設定が最初のチャンネルにしか適用されない問題を修正しました。
  - Dahua カメラの一部 (N22AL12 等) における、デフォルトポート (80) では手動で追加できない問題を修正しました。
  - FLIR デバイスからの入力信号の処理に 10~30 秒かかっていた問題を修正しました。
  - Geovision MFD1501 および EVD2100 の初期化ができない問題を修正しました。
  - Hikvision DS-2CD2123G2x, DS-2CD3687G3x, DS-2CD3743G2-IZSUHK, DS-2DE3C210IXx で入力イベントが利用できるようになりました。
  - Hikvision DVR (特に DS-7216HUHI-K2) の初期化処理を改善しました。
  - Infodraw MRS デバイスからの RTSP ストリームを初期化できない問題を修正しました。
  - IntelBras VIP-3240-IA および VIP-5230-SD におけるストリーム URI の重複問題を修正しました。
  - MERIT-LILIN カメラの初期化処理が改善されました。
  - URMET 1099/501B の RTP に関する問題を修正しました。
  - 仮想カメラの「音声を有効にする」チェックボックスがオフの状態を追加される問題を修正しました。

- 新規対応デバイス
  - ADAM-6266
  - AXIS FA54
  - Dahua DH-VCS-SHx
  - Elmo NEXIBF07T, NEXIMF02
  - Hikmicro HM-TD2628x
- アナログエンコーダー
  - Dahua N42C3P
  - Speco n32nrn, n16nrx
- マルチセンサーカメラ
  - Axis Q6020E
  - Cook Security Group P-10MP-DSx, PE-10MP-DSx, P-20MP-QSVx, PE-20MP-QSVFx
  - Elmo NEXIMM01
  - HIKVISION iDS-2CD8A46G2-XZHSY
  - Vivotek TT9333

## 不具合修正

- 全体的な修正
  - Windows Server 2016 上で、サーバーとクライアントが動作しない問題を修正しました。
  - 認証なしの URL スキームを使用した場合、デスクトップクライアントからサイトに接続できない問題を修正しました。
  - 何らかの理由でサーバーデータベースが破損した場合、サーバーが起動に失敗する問題を修正しました。現在は、データベースを新しく用意して起動します。
  - 64 ビット版 Raspberry Pi OS で、クライアント内アップデートが機能しない問題を修正しました。
  - ユーザー証明書 (ECDSA または RSA:16384) がインストールされている場合、サーバーに接続できませんでした。このような場合には、サーバーはデフォルトの (自動生成された) 証明書にフォールバックするようになりました。
  - 新しく追加された FTP ストレージのパスワードに特殊記号が含まれている場合、デスクトップクライアントからサーバーに誤ったパスワードを送信していた問題を修正しました。
  - 90 秒を超える動画を含む共有ブックマークが正しく再生されない問題を修正しました。
- デスクトップクライアントの修正
  - コーデックが変更されると、複数映像 NOV 形式でのエクスポートが機能しない問題を修正しました。
  - Linux 版デスクトップクライアント + タッチスクリーン環境において、レイアウトアイテムを最大化するためのダブルタップが機能しない問題を修正しました。
  - ユーザー/グループ権限設定のリソースタブ内で、IP アドレスによるデバイス検索ができない問題を修正しました。
  - ブックマークのみをバックアップするようにバックアップストレージが設定されていた場合、アーカイブの一部のみがバックアップされていた問題を修正しました。
  - システム統合後、LDAP ユーザーがカスタムグループから削除される問題を修正しました。
  - デスクトップクライアントを使用して .nov ファイルから高解像度の映像セグメントをエクスポートする際に、トランスコーディングが必要となる場合、生成される .mp4 ファイルの解像度が 720 × 576 に低下する問題を修正しました。
  - モーションが発生した際に、カメラ映像がピクセル化される問題を修正しました。
  - ユーザー選択ダイアログ (イベントルールや、ユーザー管理でユーザーをグループに割り当てる際) で、ユーザーを姓名で検索できない問題を修正しました。

- 映像のエクスポート中にファイルが上書きされた場合、ファイルを開くためにデスクトップクライアントを再起動する必要があった問題を修正しました。
- 初期画面からクラウドに接続する際に、短いエラーメッセージが表示される問題を修正しました。
- タッチスクリーン搭載 PC で初期画面のタイルが機能しない問題を修正しました。
- 他のサイトのカスタム権限グループを持つ v5.1 ユーザーが、クロスサイトレイアウトでカメラを開くことができなかった問題を修正しました。
- Jetson Nano において、アイテムの PTZ ボタンをクリックするとデスクトップクライアントがクラッシュする問題を修正しました。
- ハードウェアビデオデコーディングを有効化すると画像補正機能が動作しない問題について、補正機能を正常に無効化する処理を導入しました。
- ライブ映像の FPS が、低 FPS での録画を無効にした後も最大値に戻らない問題を修正しました。
- RTSP ストリームの認証情報が誤ったものに変更された際に、RTSP ストリーミングが継続されてしまう問題を修正しました。
- プラグイン診断イベント時にメールが送信されない問題を修正しました。
- 「パワーユーザー以外のツリーにもサーバーを表示する」オプションが無効になっている場合、サイトヘルスビューアーがサーバーリストにアクセスできない問題を修正しました。
- ワンクリックアップグレードで新しいバージョンのデスクトップクライアントがインストールされた場合、デスクトップショートカットからビデオウォールを起動できない問題を修正しました。
- ローカル設定（特に通知設定）に変更を適用した際に、「ユーザーを保存」確認ウィンドウが表示される問題を修正しました。
- マルチチャンネルカメラがオフラインになった場合でも、グループ化エンティティがオンラインとして表示される問題を修正しました。
- タイムラインの選択範囲内で検索した際、既存のブックマークが見つからない問題を修正しました。
- 手動で登録したカメラが、自動検出を有効にした後に重複して表示される問題が修正されました。
- 「すべてのユーザー」を選択した場合、ユーザー選択ダイアログで検索を実行できない問題を修正しました。
- イベントログの「説明」での検索性を改善しました。
- 新しいオーディオデバイス（Bluetooth 等）が接続され、OS でデフォルトに設定された際に、デスクトップクライアントの音声入出力が自動的に切り替わらない問題を修正しました。

- レイアウト上でアクティブになっているが選択されていないアイテムに対して、Alt キーを伴うホットキーが機能しない問題を修正しました。
- レイアウトをロックした後も「最小グリッドサイズ」パラメーターが無効にならない問題を修正しました。
- ユーザーが「設定の編集」権限のみを持っている場合、カメラページが再読み込みされて全般ページにリダイレクトされる問題を修正しました。
- デスクトップクライアントの新しいウィンドウを追加で開いた場合、デスクトップクライアントのウィンドウ構成が正しく保存されない問題を修正しました。
- 多数のカメラアイテムを含む複数映像エクスポート時に、一部のフレームが失われる問題を修正しました。
- Windows 上のデスクトップクライアントをリモート (SCGM と psexec CLI ツールを使用) でアンインストールできない問題を修正しました。
- メンテナンス確認ダイアログが開いている間にカメラがオフラインになると、デスクトップクライアントがクラッシュする問題を修正しました。
- 共有レイアウトをロック / ロック解除した後に、パワーユーザーや管理者が共有レイアウトの名前を変更できない問題を修正しました。
- オフラインデバイスを音声ソースとして選択した後、ライブ映像が取れなくなる問題を修正しました。
- 共有レイアウトでカメラの解像度設定が保存されない問題を修正しました。
- 以下の音声関連機能について、Mac OS Tahoe で動作しなかった問題を修正しました。
  - カメラの音声
  - テキスト読み上げアクション
  - 音声再生アクション

- サーバーの修正

- サーバーが予期せず終了した場合、再起動後も LDAP サーバーに接続できなくなる問題を修正しました。
- ECDSA キーが原因で、Let's Encrypt の証明書を読み込めない問題を修正しました。
- Nvidia Jetson のサーバーGUID が同一となり、マルチサーバー環境で競合が発生する問題を修正しました。
- アクセス不能だった SMB 共有ストレージへの接続が、アクセス可能になった後も復元されなかった問題を修正しました。
- サイト名にアポストロフィ記号が含まれているサイトが、クラウドに接続できない問題を修正しました。
- デスクトップクライアントでサイト管理ダイアログが開かれるたびに、サーバーが mail@example.com 宛てにテストメールを送信しようとしていた問題を修正しました。
- 安全でないプロトコルを使用すると、VMS からメールを正常に送信できない問題を修正しました。

## API / SDK の修正

- デスクトップクライアントのインテグレーション機能（JS API 経由）が、トークン権限を記憶することで、追加の権限要求なしに他の URL を開くことができるようになりました。これは、マップを扱う場合に特に有効です。マップが新しく作成されるたびに、新しいインテグレーションとして扱われるためです。
- イベントルールエンジン用に新しい REST API が導入されました。
- API/DSK におけるすべての「システム」表記が「サイト」表記に変更されました。
- WebRTC ストリーミングが改善されました。
- 分析 API が導入されました。
- デスクトップクライアントの JS API が完全に文書化されました。レイアウト上で表示中のインテグレーションアイテムのコンテキストメニューから利用できます。
- 詳細オブジェクト検索の SDK が、エンジンの改良を反映して更新されました。
- 分析・分類の構文が改善されました。
- サーバーがデバイスのシリアル番号を保存し、API リクエストを介して渡すことができるようになりました。
- API リクエスト `/rest/v4/update` メソッドを使用することで、サイトを特定のバージョンに更新できるようになりました。
- API リクエストからインテグレーションを削除できるようになりました。
- パワーユーザーが API 経由でシーケンシャル表示にアクセスできるようになりました。
- イベントアクションの内部 HTTPS リクエストが、汎用イベント生成 API (`/rest/v4/events/generic`) で正しく動作しない問題を修正しました。
- API リクエスト `/rest/v4/login/tickets` に関するドキュメントと実装上の問題を修正しました。ユーザーがアクセストークン (`x-runtime-guid` 値) をリクエストボディのパラメーターキーとして使用しようとした場合、サーバーは認証エラーを返していました。
- サーバー RTSP API を使用して再ストリーミングを行う際、Sender Report 内の Sender SSRC が常に 0 になっていた問題を修正しました。
- API リクエスト `/rest/v{3-4}/devices/{device_id}/ptz/presets` を使用してプリセットを作成する際に、サーバーによってプリセット ID が自動的に作成されない問題を修正しました。
- API リクエスト `/rest/v4/update/info` が空の結果を返す問題を修正しました。

## クラウド依存の機能

- クラウド側の機能がデプロイされ次第、以下の機能が順次利用可能になります。
  - サーバーをクラウドアカウントに接続する際、二次元コードを利用できるようになります。
  - JWT (JSON Web Token) のサポートが改善されます。以前のバージョンではフォールバックオプション扱いでしたが、今後はこちらがメインとなります。
  - 通知言語の設定が、サイトレベルからユーザーレベルに移動されました。これは以下に適用されます。
    - プッシュ通知
    - サイトからのメール通知
    - クラウドポータル